

キャリア教育推進全体計画

教育目標

知・徳・体の調和のとれた、国家及び社会の有為な形成者としての資質を養う。

キャリア教育の目標

- (1) 人として必要な資質・能力及び社会的適応力の育成
- (2) 将来にわたって「自分らしく生きる力」の育成
- (3) 体験的学習等による PDCA サイクル思考力と修正力の育成

キャリア教育の方針

「人を知る、自分を知る、社会を知る、自分を伸ばす」

- (1) 学ぶ意義の理解による積極的に学ぶ姿勢の向上
- (2) 社会との関わりの中で主体的に生きる自立性の涵養
- (3) 自己理解に基づく将来像の構築（＝キャリアデザイン力）と自己実現

キャリア教育により育む生徒像

- (1) 学ぶ力の育成（自己探究）
 - ア 基礎的な学力と自学学習をする力の育成
 - イ 課題を発見し解決しようとする力の育成
 - ウ 知識を統合し、他に活用する応用力の育成
- (2) 創る力の育成（自己創造）
 - ア 共に生き共に創る生活を創造する力の育成
 - イ 人格を尊重しあう人間関係を築く力の育成
 - ウ 自分の考えを相手に適切に伝える力の育成
- (3) 生きる力の育成（自己確立）
 - ア 自分を知る（自己理解）力の育成
 - イ 自分を守る（自主自律）力の育成
 - ウ 自分を創る（自己創造）力の育成

キャリア教育推進全体計画－具体的方策

キャリア教育により育みたい諸能力 —5領域 10能力— 上段：領域、下段：能力									
自己教育能力		人間関係能力		情報活用能力		将来設計能力		意思決定能力	
自己理解能力	自己表現能力	他者理解能力	コミュニケーション能力	情報収集活用能力	職業理解能力	役割把握認識能力	計画実行能力	選択決定能力	課題解決能力
<p>キャリア教育【指導目標】</p> <p>(1) キャリア教育の推進による教育内容の充実を図る。</p> <p>(2) キャリア教育と進路指導の充実による、主体的な将来設計能力の育成と、進路実現をめざす。</p> <p>(3) キャリア教育の推進による自立性、社会性の涵養と、主体的に行動できる態度を育成する。</p>									

学年目標

第1学年	第2学年	第3学年
自己理解を深め、社会や職業に対する意識を高める。	自らの役割を意識し、社会に生きるための意識を深める。	進路実現に向けて、各自の課題に計画的に取り組む。

各領域における指導内容

各教科	特別活動			総合的な学習	その他の活動
	HR活動	学校行事	生徒会活動		
①授業で、成就感・達成感を育む。 ②基本・基礎の定着を図り、学習意欲を高める。 ③自他の生き方を探求し、社会の変化等を学び、進路選択の力を身に付ける。 ④自己の能力、適性を知り、それを伸ばさせる。	①生徒一人ひとりがクラスでの役割を持ち、責任感と存在感を持てるようにする。 ②コミュニケーションによる人間関係の構築の大切さを学び、社会の一員としての役割を学ぶ。 ③他者の個性を尊重、理解し、自己理解の認識を深める。	①様々な役割を通して、周囲とのコミュニケーション能力を養う。 ②行事の計画、準備、行動全般を通して、達成感・自己有用感を育む。 ③自主的・自発的な活動を通して、主体性を涵養する。 ④他者の個性を尊重、理解し、自己理解の認識を深める。	①学校生活の充実・改善を図ることで、課題解決能力や計画実行能力を培い、社会性を高め、個性の伸長に努める。 ②部活動は人間関係能力を高める重要な場であり、様々な困難を克服することで強い意思力を育む。	①「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」(学習指導要領より) ②自ら課題を設定し、その解決のために、自ら考え、主体的に行動できる人材を育む。 ③課題研究を進めることによって、探究心と自己表現力を養う。	①積極的な生徒指導の充実を通して、規範意識やマナーを育む。 ②「人とかかわる力」を育成し、協働の心を育む。 ③保護者、地域社会、幼保小中・上級学校等と連携を図り、連携ネットワークを構築する。 ④就労体験・奉仕体験等による自己有用感、社会性を育む。

校内指導体制

外部連携	内部連携	学力向上
①外部指標を活用して自己の学力を把握させ、高大等連携等の活用と併せて、学ぶ意義の理解、学習意欲の向上を図る。 ②地域連携を深め、社会性を身に付ける。 ③同窓会とタイアップしながらキャリア教育を推進する。 ④就労体験・奉仕体験の重要性を説き、積極的に参加を促す。 ⑤国際教育の推進により、思考力・判断力・表現力を高める。	①生徒指導の充実による規範意識、マナーを涵養する。 ②教科指導、特別活動等含め、全ての分野におけるキャリア教育を実践する。 ③養護教諭、スクールカウンセラーなどとの連携による教育相談体制を充実する。 ④ガイダンス機能とカウンセリング機能の充実による支援体制を確立する。 ⑥安心・安全な学校生活を送るための環境整備を推進する。	①基本・基礎の定着、さらには応用力につなげるためのアクティブラーニング型の授業改善を図り、学習意欲を高め、学力向上を図る。 ②自ら学習する姿勢を養うため、自習室の整備等、校内の環境整備を進める。 ③学習習慣を確立させるよう、また学習意欲を高めるよう「大和西ドリカムプロジェクト」を推進する。 ④プレゼンテーション、小論文指導の機会を設け、自己表現力を高める。 ⑤取得可能な資格の拡大を図る。